

熊本城 復興に向けて

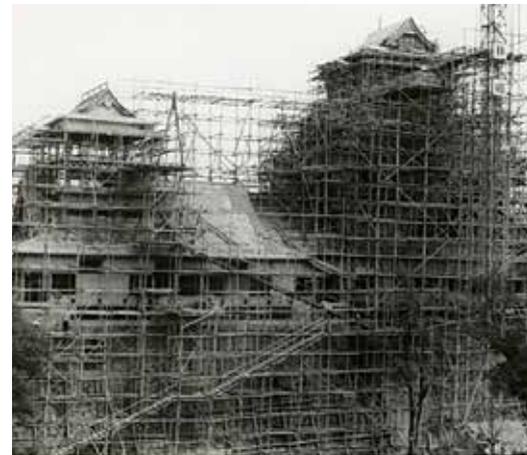
〈14〉昭和35年の天守再建

熊本城の天守再建については市民の中でも賛否両論があり、多額の再建費用調達も大きな課題となっていました。熊本市はその費用を2億円と見積もり、うち1億5,000万円を国からの借入れとし、残り5,000万円を市民・県民からの募金や民間企業からの寄付金でまかなう計画を立てましたが、あまりに巨額であったため計画通りに進むのか危ぶまれました。しかし、市内古桶屋町で金融業を営んでいた松崎吉次郎氏が民間からの寄付予定全額分の5,000万円の寄付を申し出て、大きな話題となりました。また、天守閣の屋根に葺く平瓦・熨斗瓦・鬼瓦など16種類、100円から3,000円までの瓦を市民が購入し記名などをする「瓦募金」も行われました。熊本城内のほか市役所・熊本駅・デパートが募金場所となり、市内のみならず県内外から約7,000枚分の寄付が集まりました。

天守再建の起工式は、昭和34年(1959)4月1日に天守閣前広場で行われました。市長をはじめ300人ほどが出席し、鍬入れや杭打ちなどが行われ、再建する大天守・小天守の高さを示すアドバルーンがそれぞれ上げられました。しばらく基礎工事が行われた後、8月には立柱式^{りっちゆうしき}*1が行われ、建物部分の工事が進められました。

上棟式^{じやうとうしき}*2は起工式からちょうど1年後にあたる35年(1960)4月1日、骨組みが完成した大天守1階で行われました。5月には、奈良の職人が製作した鯰瓦^{しやうがわ}(高さ約155cm・重さ約100kg)が大天守の屋根に据え付けられました。6月に入ると作業用足場の解体がはじまり、同年8月31日に竣工しました。

天守閣の落成式は9月22日に行われ、明治10年(1877)の西南戦争直前に焼失して以来、83年ぶりにその姿を現しました。落成式には、坂口主税市長、松崎吉次郎氏や設計者の藤岡通夫東京



▲大天守鯰瓦の据付
(個人蔵)

◀建設途中の天守閣
(熊本市歴史文書資料室所蔵)

工業大学教授をはじめ多くの人々が参列し、祝賀飛行機が飛んだり、花火が打ち上げられたりするなど、華やかなお披露目となりました。完成した熊本城天守閣は総工費約1億8,000万円、鉄骨・鉄筋コンクリート造で大天守は3重6階地下1階、小天守は2重4階地下1階、内部は熊本博物館の分館として熊本城や郷土史に関する歴史資料が展示されました。

天守閣のお披露目の後、10月1日から3日にかけて天守閣の再建を祝うお城まつりが開催されました。「千人清正公」の武者行列や熊本城をテーマにしたスケッチ大会など様々なイベントが行われ、多くの人々に賑わいました。

※1 立柱式…建物を建てる時、初めて柱を立てることやその儀式のこと

※2 上棟式…建物の骨組みが組み上がった時に、神を祀って行う儀式のこと